



苫小牧支部

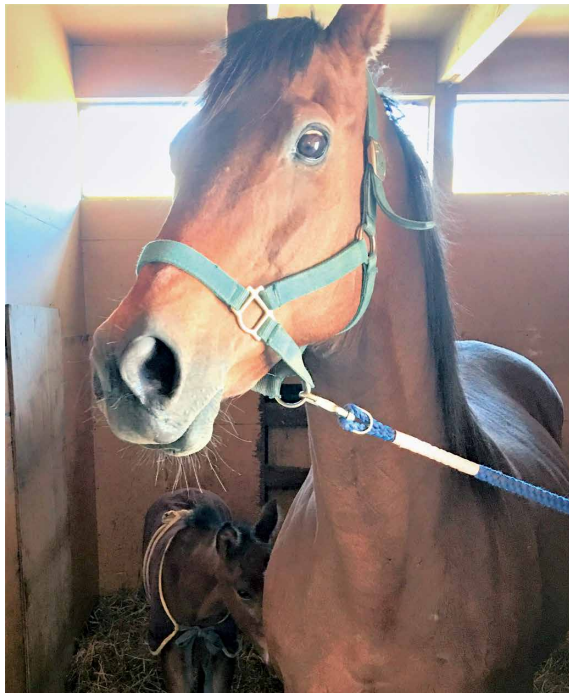
小泉 統邦

Motokuni Koizumi

苫小牧支部の小泉統邦と申します。平成30年4月1日に浦河町で開業し、TKCには同年8月に入会させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、浦河町のキャッチフレーズ「丘と海のまきば」にちなんで、日高の丘と海の春を紹介します。

日高の「丘」といえば見渡す限りの牧場風景。春は出産と種付のシーズンで、生産牧場の繁忙期となります。社長家族と従業員が交代で厩舎に取り付けられた監視カメラのモニターを見ながら、昼夜を問わずお産が始まるのを見守ります。先日、牧場に訪問し社長と打合せをしている最中にも一頭男の子が産まれました。後日あらためて訪れたところ、普段は立入禁止なのですが特別に厩舎の中を見学させていただくことができました。そこにはG12勝の母馬にぴったりくっ



G12勝 母馬と当歳馬

ついて甘えている当歳馬がいました。父親はダービー馬。この仔が競走馬としてデビューするのは早くても2年後になります。すくすく育て両親のように活躍することを祈っています。

一方、「海」といいますと、この時期は時鮭、真つづ、ボタンエビなどが獲れますが、ここ数年テレビや情報誌などでPRに力を入れている「日高の春うに」が有名になりつつあります。日高昆布を食べて育った甘くてとろける美味しさが人気となっており、数日前にえりも町の某寿司店に行った際、お昼から札幌ナンバーや帯広ナンバーの観光客が多数来店しており、ほぼ満席状態となっていました。私も毎年この春うにをいただくのを楽しみにしているのですが、数年前に3日連続で春うにを井を食べたところ、4日目の朝に左足の親指が腫れあがり激痛が走りました。まさに風が吹いても痛いというやつです。食べすぎには注意しましょう。

漁業は後継者不在や不漁続きといった不安面もありますが、ここ7～8年の間、国の補助事業として新造船が續々建造されています。今年に入ってうちの関与先でも3月に9.7t船の進水式が行われ、6月には49t船の進水式が控えています。競走馬同様、漁業は重要な基幹産業でありますので、後継者育成と漁の回復に期待しています。

皆さんもぜひ春の日高を訪れてみてください！



進水式